

※「その他、診断の結果・今後の対策、総合所見」のコメントの参考資料です。

	コメント例
その他	<p>例) 車庫は後付であり、母家との接合は簡易なものですから、耐震診断面積に算入していません。 増築部の筋かいは、目視確認できた箇所のみを算入しています。 又、床下の調査が出来なかった為 (家財道具が多く移動は困難であり、下地荒板を外すことが出来なかった為)、内部の耐力壁の算定には独立基礎を想定して計算しています。</p>
	<p>例) 居室00は病気療養中の為、調査は不可でした。</p>
	<p>例) 構造の異なる部分等は対象外としました。</p>
	<p>例) 床下・小屋裏等は目視を重視しました。</p>
	<p>例) 雪の為、屋根の状況はあまり確認出来ませんでした。 一部雪を落とした部分では、劣化したところは見受けられませんでした。</p>
	<p>例) 床下は進入出来ませんでしたが、独立基礎が多く存在していることが確認できます。</p>
	<p>例) 土塗壁の為、筋かいは確認出来ませんでした。 真壁が多い為、筋かいはあまり施工されていないと思います。</p>
	<p>例) 隣接地に設置されているコンクリートブロック塀に経年劣化が見られます。 また、控壁がありません。今後も監視をお願いします。</p>
	<p>例) 筋かいは目視確認出来たものだけに限り、有効として評価しています。 床下地盤面が荒れており、一部に沈んでいる様にみられる部分もあるので、補強工事等の際には詳しい調査をお勧めします。</p>
	<p>例) 筋かいは、確認出来たもののみ評価しました。 アルミ製バルコニーは後付の為、耐震面積には算入していません。 2階が2箇所ある為、2階を含む1階を各々計算し3タイプの集計で計算書を作成しました。</p>

※「その他、診断の結果・今後の対策、総合所見」のコメントの参考資料です。

	コメント例
診断の結果	例) 小屋裏の横架材にズレがありますので、早急に補強をお勧めします。
今後の対策	例) 今後は、耐力壁の補強、新設をバランス良く配置した耐震補強工事を御検討下さい。
	例) 耐力壁のバランスはとれていますが、耐震性は低い状態です。今後は劣化の進んでいる外壁の改修と共に、その他の劣化度の解消を行い、既存壁の補強、耐力壁の新設等をバランスよく配置して耐震性を確保されることをお勧めします。
	例) つり合いよく耐力壁等を増設するなど補強をお勧めします。
	例) 床下には独立基礎が多く存在しています。ブロックが2段積まれています。建物の荷重を負担していません。建物内部ですが大きな部屋が多く存在して、又開口部も多い為地震力を負担する壁が少ないようです。耐震性を向上させる為には耐震力の補強増設、基礎の補強増設、劣化した外壁の張替え等全体的なリフォームを含めた耐震補強工事が必要となると思います。安心に暮らせるよう耐震補強工事等をお勧めいたします。
	例) 耐震診断の結果「倒壊する可能性が高い」となりました。建物全体に耐力壁が不足しています。また経年劣化も見られます。大地震に備えて、耐震改修工事をお勧めします。
	例) 耐震上有効な要素として、外壁トタン板下地の石膏ボードと内壁下地石膏ボード、及び筋かいと一部和室ラスボードを評価しました。1,2階共に耐力評価出来る壁が確認されましたが、1階X方向の耐力壁が少なく、厳し評価となりました。今後の対策としては、既存筋かいや軸組の金物を使用した補強や、特に1階部分の耐力壁の新設などバランスの良い補強をお勧めします。
例) 全体的には耐力壁が不足しています。特に1階の耐力壁が少なく、重心と剛心のバランスも悪い為、1階の評点がかかなり低い値となっています。既存耐力壁の補強及び新設壁をバランスよく行い、耐震補強をすることをお勧めいたします。	

※「その他、診断の結果・今後の対策、総合所見」のコメントの参考資料です。

	コメント例
総合所見	例) 外部・内部共、目視による目立った異常は見られませんでした、全体に耐震性が低い結果でした。
	例) 浴室の割れがあります。水漏れの恐れから、土台・床下の蟻害が心配されます。
	例) メンテナンスはよく実施されていますが、構造材を接合している金具等のゆるみも進行しています。
	例) 壁強さが低く、耐力を評価出来る壁が不足していることから「倒壊する可能性が高い」という診断結果になりました。
	例) 小屋裏に雨漏りの箇所がありますが、小屋組材に影響はありません。床下は根がらみ等が施工されていません。布基礎の割合が少なく、上部構造の荷重の具合によるひび割れが生じています。上部構造の補強の際には下部構造と土留めコンクリートの補強をお考えください。
	例) 上部構造評点の最小値は0.23「倒壊する可能性が高い」という判定結果になりました。耐震性を向上するよう耐震補強工事等をお勧めいたします。
	例) 本建物は築後00年を経過しました。また、御自身は平成00年00月にリフォーム済の中古住宅としてご購入されています。洗面所、2階洋室の雨漏り等があり屋根の塗装、軒樋の交換をされています。今回の耐震診断の結果「倒壊の可能性が高い」となりましたが、その要因としては次の通りです。外壁モルタル壁が横架材(軒桁)まで達していず評価出来なかったこと、1階に於いては2階の短辺長さが6m未満の為、通常の1.15倍の耐力を必要とされること、及び南側に評価出来る壁が存在せず偏った耐力配置になっていたことです。改修工事でバランスの良い耐力壁の配置・増設と基礎の補強、劣化の改善をお勧めいたします。
	例) 建物内外部共によく維持管理されている建物です。しかし、今回は厳しい結果となりました。原因として、一つは全体的に耐力評価出来る壁が少なく(一つ一つの壁強さが小さい)、特に1階X方向に耐力要素となる壁が少ない事。他に、軸組筋かいなどの接合部分に補強金物が使用されていない事も挙げられます。また、2階の耐力配置バランスは比較的悪くないですが、1階は例えば南側X方向を中心に耐力壁の増設などの補強をする事によって、バランスの改善を図る方法があります。その際は、今回の調査では確認できなかった部分の詳しい調査や既存軸金物、基礎の補強も合わせて検討されることをお勧めします。
例) 全体的に耐力壁が少なく、バランスも悪い為、「倒壊する可能性が高い」と言う評価となりました。特に1階の耐力壁が少ないです。耐震設計、耐震補強をお勧めします。	